

全建総連 支援対策本部ニュース(No.30)

全建総連 東日本大震災支援対策本部

福島班からの報告

「保険証を持参しました」

埼玉加須市 旧騎西高校 13人に交付、あらたに9家族を確認

「今日は、保険証を持ってまいりました」——福島第一原発20キロ圏内の双葉町民1,400人が集団避難している埼玉県加須市の旧騎西高校で、4月7日の安否(所在)確認で16人の組合員と10人の家族の所在が確認されました。対策本部福島班(浅賀共済福祉部長・森主任書記・小俣書記)は13日、中建国保の秋葉保健事業課員とともに現地を再訪問、まだ新年度の健康保険証を所持していない13家族に、保険証を届けました。

「各部屋を回って、仲間を捜して13人まで確認したけれど」。息子の宇名根誠さんの分と2枚の保険証を手に話す宇名根幸夫さんは、双葉建設組合の役員で、2世帯5人で避難しています。「組合員16人と家族も10人いましたか」と名簿をみながら領きます。

「まさか届けてもらえるとは思っていなかった」と喜ぶ土田光雄さんは、奥さんと息子さんの3人で、他の10数世帯の人たちと社会科室に避難しています。奥さんの賀子さんは「風邪をぶり返してしまって」とマスクを指差します。



息子さんご家族と一緒に避難中の宇名根幸夫さん



避難所で部屋の班長も務める土田光雄さん(中央)と奥様の賀子さん

「労災保険の更新をどうしようか」と思案顔は、中庭を散策していた佐々木清一さん。「とりあえず職人はいわきに帰したが、日当 7,000 円だよ。当分、仕事の見込みはたたない。仮設(住宅)の仕事でも回ってくれば、一息つけるんだが」と。11 日から公募が始まった福島県での「木造応急仮設住宅建設」の話に、「組合の渡辺さん(清さん、双葉建設組合の書記)と連絡をとってみる」とつづけました。

途中、町役場の協力で、双葉建設の名簿と避難者名簿をつきあわせ、あらたに 8 人の所在が確認されました。

新潟の柏崎に避難して、たった今加須に着いたばかりの黒沢正男さんは、「今日一日ここに泊まって、明日(柏崎に)帰って、家族(10 人)で、ここに来ることにしました」と。「仕事もそうだが、子供の学校のこともあるし」と今後の不安をのぞかせます。



双葉町議会の議長でもある清川泰弘さん(左)と浅賀共済福祉部長



約 140 人が避難している自治人材開発センター(埼玉県さいたま市)。入口左手には「一時避難場所」の表示が。

「家は浜辺から 1,500m。なんとか津波から逃れられたが、二階の屋根が落ちてしまって…。買ったばかりの車もそのまま置き去りに」と話す清川泰弘さんは、双葉町議会の現役議長。「自然災害共済(全労済)に入っているんだが、その手続きは」「組合のことは、妻と娘(仙台に避難)にまかせっきり。娘に連絡して手続きさせている」と。

朝 10 時から午後 3 時過ぎまでに、前回確認した 16 人のうち 14 人(2 人は他県に避難)と面会。持参した 13 枚の保険証を交付、新しく所在が確認できた 9 家族に、組合(全建総連福島)への連絡を確認し、保険証の交付について説明しました。

旧騎西高校の次に、同じく双葉郡からの避難者 140 人が暮らす、さいたま市土呂町にある自治人材開発センターを訪問。双葉建設組合員 1 人の所在を確認しましたが、あいにく留守でしたので、担当の職員に「組合への連絡を」とのチラシを託し、掲示板に連絡先のチラシを貼っていただきました。